

クレジット:

UTokyo Online Education 数理手法Ⅳ2017 楠岡成雄

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限って、特に記載のない限り、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下で利用することができます。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



## 8.4 条件付き期待値

$(\Omega, \mathcal{F}, P)$  を確率空間とする.

**命題 8.4.3** (3.2.1)  $X, Y$  を非負値確率変数、 $a \geq 0$ ,  $\mathcal{G}, \mathcal{H}$  を部分  $\sigma$ -加法族とする. この時以下が成立する.

- (1)  $E[X|\{\emptyset, \Omega\}] = E[X]$ .
- (2)  $E[aX|\mathcal{G}] = aE[X|\mathcal{G}]$  *a.s.* また  $E[X+Y|\mathcal{G}] = E[X|\mathcal{G}] + E[Y|\mathcal{G}]$  *a.s.*
- (3)  $X \geq Y$  *a.s.* ならば  $E[X|\mathcal{G}] \geq E[Y|\mathcal{G}]$  *a.s.*
- (4)  $\mathcal{H} \subset \mathcal{G}$  ならば  $E[E[X|\mathcal{G}]|\mathcal{H}] = E[X|\mathcal{H}]$  *a.s.*

**命題 8.4.4**  $X_n, n = 1, 2, \dots$  を非負値確率変数、 $\mathcal{G}$  を部分  $\sigma$ -加法族とする. この時以下が成立する.

- (1) すべての  $n = 1, 2, \dots$  に対して  $X_n \leq X_{n+1}$  *a.s.* が成立すると仮定する. この時、

$$E[\lim_{n \rightarrow \infty} X_n|\mathcal{G}] = \lim_{n \rightarrow \infty} E[X_n|\mathcal{G}] \text{ *a.s.*}$$

- (2)  $E[\lim_{n \rightarrow \infty} X_n|\mathcal{G}] \leq \lim_{n \rightarrow \infty} E[X_n|\mathcal{G}]$  *a.s.*

**命題 8.4.5** (3.2.2)  $X, Y$  は非負値確率変数、 $\mathcal{G}$  は部分  $\sigma$ -加法族とし、 $Y$  は  $\mathcal{G}$ -可測と仮定する. この時

$$E[YX|\mathcal{G}] = YE[X|\mathcal{G}] \text{ *a.s.*}$$

が成立する.

**命題 8.4.6** (3.2.1)  $X, Y$  を可積分確率変数、 $a \in \mathbf{R}$ ,  $\mathcal{G}, \mathcal{H}$  を部分  $\sigma$ -加法族とする. この時、以下が成立する.

- (1)  $E[X|\{\emptyset, \Omega\}] = E[X]$ .
- (2)  $E[aX|\mathcal{G}] = aE[X|\mathcal{G}]$  *a.s.*  $E[X+Y|\mathcal{G}] = E[X|\mathcal{G}] + E[Y|\mathcal{G}]$  *a.s.*
- (3)  $X \geq Y$  *a.s.* ならば  $E[X|\mathcal{G}] \geq E[Y|\mathcal{G}]$  *a.s.*
- (4)  $\mathcal{H} \subset \mathcal{G}$  ならば  $E[E[X|\mathcal{G}]|\mathcal{H}] = E[X|\mathcal{H}]$  *a.s.*

**命題 8.4.7** (3.2.2)  $X, Y$  は確率変数、 $\mathcal{G}$  は部分  $\sigma$ -加法族とし、 $Y$  は  $\mathcal{G}$ -可測と仮定する. さらに、 $X$  及び  $XY$  が可積分とする. この時

$$E[YX|\mathcal{G}] = YE[X|\mathcal{G}] \text{ *a.s.*}$$

が成立する.

**命題 8.4.8** (3.2.4)  $(S_i, \Sigma_i), i = 1, 2$ , は可測空間で  $X_i, i = 1, 2$ , は  $S_i$ -値確率変数、則ち  $X_i$  は  $\Omega$  から  $S_i$  への  $\mathcal{F}/\Sigma_i$ -可測写像とする. いま、 $\mathcal{G}$  は部分  $\sigma$ -加法族、 $f: S_1 \times S_2 \rightarrow [0, \infty]$  は  $\Sigma_1 \times \Sigma_2$ -可測写像とする. さらに、 $\sigma\{X_2\}$  と  $\mathcal{G} \vee \sigma\{X_1\}$  は独立とする. この時、

$$E[f(X_1, X_2)|\mathcal{G}] = E[h_f(X_1)|\mathcal{G}]$$

ただし、 $h_f: S_1 \rightarrow [0, \infty)$  は  $h_f(x) = E[f(x, X_2)]$ ,  $x \in S_1$  で与えられる関数である.

## 8.5 離散時間マルチンゲール

**定義 8.5.1** (4.1.1)  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$  がフィルトレーションであるとは、

- (1)  $\mathcal{F}_n, n \in \mathbf{Z}_{\geq 0}$  は  $\mathcal{F}$  の部分  $\sigma$ -加法族
  - (2) すべての  $n \geq 0$  に対して  $\mathcal{F}_n \subset \mathcal{F}_{n+1}$
- が成り立つこと。

**定義 8.5.2** (4.1.2)  $\{\mathcal{F}_t\}_{n=0}^\infty$  はフィルトレーションとする。  $X = \{X_n\}_{n=0}^\infty$  が  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$ -マルチンゲールであるとは

- (1) 各  $n \in \mathbf{Z}_{\geq 0}$  に対して、 $X_n$  は可積分な確率変数で、 $\mathcal{F}_n$ -可測
- (2)  $n, m \in \mathbf{Z}_{\geq 0}, n \geq m$  ならば

$$E[X_n | \mathcal{F}_m] = X_m$$

が成り立つことをいう。

どのフィルトレーション  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$  の下で考えているかが明らかでない時、 $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$ -マルチンゲールを単にマルチンゲールと呼ぶ。

また、劣（優）マルチンゲールも以下のように定義される。

**定義 8.5.3** (4.1.2)  $\{\mathcal{F}_t\}_{n=0}^\infty$  はフィルトレーションとする。  $X = \{X_n\}_{n=0}^\infty$  が  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$ -劣（優）マルチンゲールであるとは

- (1) 各  $n \in \mathbf{Z}_{\geq 0}$  に対して、 $X_n$  は可積分な確率変数で、 $\mathcal{F}_n$ -可測
- (2)  $n, m \in \mathbf{Z}_{\geq 0}, n \geq m$  ならば

$$E[X_n | \mathcal{F}_m] \geq (\leq) X_m$$

が成り立つことをいう。

**命題 8.5.4** (4.1.3)  $X = \{X_n\}_{n=0}^\infty, Y = \{Y_n\}_{n=0}^\infty$  がマルチンゲールであり、 $a, b \in \mathbf{R}$  ならば  $aX + bY = \{aX_n + bY_n\}_{n=0}^\infty$  もマルチンゲール。

(2)  $X = \{X_n\}_{n=0}^\infty, Y = \{Y_n\}_{n=0}^\infty$  が劣（優）マルチンゲールであり、 $a, b \geq 0$  ならば  $aX + bY = \{aX_n + bY_n\}_{n=0}^\infty$  も劣（優）マルチンゲール。

**定理 8.5.5** (4.2.2) (Doob の不等式)  $M = \{M_n\}_{n=0}^\infty$  をマルチンゲールとする。この時、 $p \in (1, \infty)$  に対して

$$E\left[\max_{k=0,1,\dots,n} |M_k|^p\right]^{1/p} \leq \frac{p}{p-1} E[|M_n|^p]^{1/p}, \quad n \geq 0$$

が成立する。

**命題 8.5.6** (4.2.3)  $M = \{M_n\}_{n=0}^\infty$  がマルチンゲールであり、 $E[M_n^2] < \infty, n \geq 0$  と仮定する。この時、

$$E[(M_n - M_m)^2 | \mathcal{F}_m] = E[M_n^2 | \mathcal{F}_m] - M_m^2, \quad n \geq m \geq 1,$$

$$E[M_n^2] = E[M_0^2] + \sum_{k=1}^n E[(M_k - M_{k-1})^2], \quad n \geq 0$$

が成り立つ。

特に、

$$E\left[\max_{k=0,1,\dots,n} M_k^2\right] \leq 4(E[M_0^2] + \sum_{k=1}^n E[(M_k - M_{k-1})^2]), \quad n \geq 0$$

が成立する。

**定義 8.5.7** (5.1.1)  $\sigma$  が (F-) 停止時刻であるとは、 $\sigma$  は  $\Omega$  上で定義された値を  $\mathbf{Z}_{\geq 0} \cup \{\infty\}$  に値をとる関数で

$$\{\sigma = n\} \in \mathcal{F}_n, \quad n = 0, 1, \dots,$$

が成り立つことをいう。

**命題 8.5.8** (5.1.3) (1)  $m \in \mathbf{Z}_{\geq 0} \cup \{\infty\}$  とする。  $\tau \equiv m$ 、すなわち、 $\tau$  は恒等的に値  $m$  をとる関数とすると  $\tau$  は停止時刻。

(2)  $\sigma, \tau$  が停止時刻であれば  $\sigma \wedge \tau, \sigma \vee \tau, \sigma + \tau$  も停止時刻。ここで、 $\sigma \wedge \tau$  はそれぞれ  $(\sigma \wedge \tau)(\omega) = \sigma(\omega) \wedge \tau(\omega), \omega \in \Omega$ , で定義される関数である。  $\sigma \vee \tau, \sigma + \tau$  も同様である。

**定義 8.5.9** (5.1.3) 停止時刻  $\tau$  に対して、 $\mathcal{F}$  の部分集合の族  $\mathcal{F}_\tau$  を次で定義する。

$$\mathcal{F}_\tau = \{A \in \mathcal{F}; \text{すべての } n \in \mathbf{Z}_{\geq 0} \text{ に対して } A \cap \{\tau = n\} \in \mathcal{F}_n \text{ が成立する}\}.$$

**命題 8.5.10** (5.1.4) (1)  $\mathcal{F}_\tau$  は部分  $\sigma$ -加法族である。

(2)  $\tau$  は  $\mathcal{F}_\tau$  可測な関数である。

**命題 8.5.11** (5.1.5)  $\sigma, \tau$  を停止時刻とする。

(1)  $A \in \mathcal{F}_\sigma$  ならば  $A \cap \{\sigma \leq \tau\} \in \mathcal{F}_\tau$  かつ  $A \cap \{\sigma \leq \tau\} \in \mathcal{F}_{\sigma \wedge \tau}$ 。

(2)  $\sigma(\omega) \leq \tau(\omega)$  がすべての  $\omega \in \Omega$  に対して成立するならば、 $\mathcal{F}_\sigma \subset \mathcal{F}_\tau$ 。

(3)  $\mathcal{F}_\sigma \cap \mathcal{F}_\tau = \mathcal{F}_{\sigma \wedge \tau}$ 。

(4)  $\{\tau < \sigma\}, \{\tau = \sigma\}, \{\tau > \sigma\} \in \mathcal{F}_{\sigma \wedge \tau}$ 。

**命題 8.5.12** (5.3.4)  $M = \{M_n\}_{n=0}^\infty$  はマルチンゲール、 $\sigma, \tau$  は停止時刻、 $N \in \mathbf{Z}_{\geq 0}$  とし、 $\sigma(\omega) \leq \tau(\omega) \leq N, \omega \in \Omega$  と仮定する。この時、

$$E[M_\tau | \mathcal{F}_\sigma] = M_\sigma$$

**命題 8.5.13** (5.3.5)  $X = \{X_n\}_{n=0}^\infty$  は劣マルチンゲール、 $\sigma, \tau$  は停止時刻、 $N \in \mathbf{N}_0$  とし、 $\sigma(\omega) \leq \tau(\omega) \leq N, \omega \in \Omega$  と仮定する。この時、

$$E[X_\tau | \mathcal{F}_\sigma] \geq X_\sigma$$

**定理 8.5.13** (6.2.1)  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$  がフィルトレーション、 $\{X_n\}_{n=0}^\infty$  が  $\{\mathcal{F}_n\}_{n=0}^\infty$ -劣マルチンゲールであれば任意の  $a, b \in \mathbf{R}, a < b$  に対して

$$E[U_N(\{X_n\}_{n=0}^\infty; a, b)] \leq \frac{E[(X_N - a) \vee 0]}{b - a} \leq \frac{E[|X_N|] + |a|}{b - a}.$$